

庭園完成の祝いの茶会から百年。
今、ふたたびの風雅。



三溪園での「大師会」開催 100 周年
記念茶会 — チケット発売のご案内 —

チケット発売日：2023 年 9 月 12 日（火）10 時

主催：公益財団法人三溪園保勝会

共催：東京美術青年会

後援：東京美術商協同組合

三溪園
SANKEIEN GARDEN



三溪園での「大師会」開催 100 周年 記念茶会

“千利休以来の大茶人”ともいわれた三井物産の創始者・益田鈍翁が東京品川の御殿山に構えていた自邸に数寄者を集めて始めた茶会が大師会です。この茶会は、大正 12 (1923) 年の第 23 回をもって、それまでの私的なものから財団法人による運営となりました。この新体制のもと、鈍翁邸から会場を移して初めて開催された地が三溪園です。

今年はこの茶会から 100 年。当時の規模には及びませんが、伝・織田有楽作の茶室・春草廬、そして園主・原三溪が精魂を傾けて移築した“東の桂離宮”とたとえられる臨春閣を主会場に、近代の数寄者たちが理想とした、自由で型にとらわれない茶の世界をお楽しみいただきます。

■開催日時

2023 年 10 月 28 日 (土)

①9:30～ ②10:30～ ③11:30～ ④12:30～ ⑤13:30～ ⑥14:30～

※上記各回の開始時間は、濃茶席（春草廬）への席入り時間となります。

■会場



重要文化財 春草廬 一濃茶席

織田有楽の作と伝えられる江戸時代初期の茶室で、小間は大正 11 (1922) 年に京都・宇治の三室戸寺金蔵院から移築、三溪により広間が付設された。かつては臨春閣の裏手に白雲邸と接続して建てられていた。



重要文化財 臨春閣 一薄茶席

江戸時代初期の紀州徳川家別荘・巖出御殿の遺構と伝えられ、京都の桂離宮・修学院離宮とともに、現存する江戸時代の数寄屋の白眉といわれる名建築。屋内の意匠とともに内部から望む庭園の眺めもみどころ。



横浜市指定有形文化財 白雲邸 一点心席

大正 9 (1920) 年に原三溪が夫人と暮らすための隠居所として建てたもので、三溪自らの構想により同郷の大工・山田源市に造らせた三溪の好みを伝える数寄屋建築。かつては臨春閣と連結されていた。

■参加費

35,000 円 (税込み 濃茶・薄茶 2 席分の席入料、1 名様分の点心・三溪園入園料が含まれます。)

※年齢等による免除・割引はありません。

※個人のご都合による不参加の場合の返金はいたしません。

■定員

90 名 (15 名×6 回)

■お申込み

2023 年 9 月 12 日 (火) 午前 10 時より、お電話でお申込みを受け付けます。

TEL045-621-0635 (三溪園)

※事前申込み制となります。

※指定口座への代金振り込みが必要となります。詳細はお申込みの際にご案内します。

■主催等

主催：公益財団法人 三溪園保勝会

共催：東京美術青年会

後援：東京美術商協同組合



大正 12 (1923) 年大師会当日の原三溪



三溪園

SANKEIEN GARDEN

〒231-0824 横浜市中区本牧三之谷 58-1

TEL 045-621-0634・5

※お問い合わせの際は、番号をお間違えないようご注意ください。

<https://www.sankeien.or.jp>

